

令和3年6月の解説（府県天気予報）

【6月の天候状況】

上旬は、梅雨前線は日本の南海上に停滞しやすく、5日頃は台風第3号の影響を受けて、沖縄・奄美では曇りや雨の日が多く、降水量が多くなりました。本州付近は高気圧に覆われやすく晴れた日が多かったため、日照時間は北日本でかなり多く、東日本と西日本で多くなりました。北日本太平洋側では、1961年の統計開始以降で6月上旬として1位の多照となりました。一方、3日から4日に前線を伴った低気圧が通過したため全国的にまとまった雨が降り、北日本を中心に大荒れの天気となりました。このため、北日本と東・西日本日本海側の降水量は多くなりました。8日以降、北日本、東日本、西日本では暖かい空気に覆われやすく、晴れて強い日射の影響を受け、9日には猛暑日となった所もありました。暖かい空気が流れ込みやすい日もあったため、全国的に平均気温は高く、特に北日本と西日本ではかなり高くなりました。

中旬は、北日本では13日ごろまで高気圧に覆われやすく晴れた日が多くなりましたが、15日頃からは北海道オホーツク海側ではオホーツク海高気圧の影響で気温が平年を下回る日が多くなりました。気圧の谷の影響を受けやすかった東日本日本海側や、九州付近に停滞した梅雨前線の影響を受けやすかった西日本の日照時間は少なくなりましたが、湿った空気が流れ込みにくかった沖縄・奄美の降水量は少なくなりました。なお、関東甲信地方では14日ごろ、北陸地方は18日ごろ、東南北部と東北北部は19日ごろに梅雨入りしたとみられます(速報値)。

下旬は、梅雨前線が日本の南海上に停滞しやすかったため、沖縄・奄美では曇りや雨の日が多く、29日は沖縄本島地方で記録的な大雨となりました。このため、平均気温はかなり低く、降水量はかなり多く、日照時間はかなり少なくなりました。沖縄・奄美の降水量は1946年の統計開始以降、日照時間は1961年の統計開始以降、それぞれ6月下旬として1位の多雨と寡照となりました。一方、北日本、東日本、西日本では、上空に寒気が入って大気の状態が不安定となって雷雨となった所があり、27日頃は台風第5号に伴って湿った空気が流れ込んで東・西日本太平洋側を中心に曇りや雨となりましたが、梅雨前線の影響を受けにくく、高気圧に覆われて晴れる日もありました。このため、北日本太平洋側、東日本日本海側、西日本の降水量はかなり少なく、西日本日本海側の日照時間はかなり多くなりました。

【6月の検証結果】

17時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値^(注)と同じ83%で、明後日予報は例年値より2ポイント高い79%でした。地方別の適中率では、明日予報は、北海道、東北、関東甲信、中国、九州北部、九州南部の各地方で例年値を上回りました。また、明後日予報は、北海道、東北、北陸、近畿、中国、九州北部、九州南部の各地方で例年値を上回りました。

同じく17時発表の天気予報による明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より0.4℃小さい1.5℃で、沖縄地方を除く各地方で例年値よりも小さくなりました。また、最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値より0.2℃小さい1.0℃で、東北、関東甲信、東海、北陸、近畿、中国、四国、九州北部、九州南部、沖縄の各地方で例年値よりも小さくなりました。

(注) 例年値は気象庁HP(予報精度検証)内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【8月の天気予報の利用にあたって】

8月は年間を通して最も気温が高く、真夏日(日最高気温が30℃以上の日)が最も多く、猛暑日(日最高気温が35℃以上の日)となることもあります。熱中症対策の情報として、翌日又は当日の暑さ指数(WBGT: 湿球黒球温度)が33以上になることが予測される場合に「熱中症警戒アラート」が発表されます。熱中症予防など、健康管理にご活用ください。